



100年前の原始性が感じられる森林を復活させよう

# ニュースレター

山の日制定記念

野幌「森林づくり塾2016」

石狩地域森林ふれあい推進センター

TEL: 011-533-6741  
FAX: 011-533-6743

## 第1回「森林づくり塾2016」を開催しました

「野幌森林公園の野鳥の見方を学ぼう」  
—森と人々との係わり—

「森林づくり塾」は、平成 16 年の台風被害にあった野幌森林公園の自然再生プロジェクトの一環として、市民の皆さんが、植栽などの森林づくりに関する実体験や知識の習得をしながら、森林と人との係わりなどについて学んでいくものです。

今年度は、3回の開催を予定しており、募集人員20名のところ32名の参加申し込みがあり、多くの方々に関心をいただいていることを実感しました。

第1回目は、5月28日(土曜日)に「野幌森林公園の野鳥の見方を学ぼう」をテーマに野鳥の観察をつうじて森林の役割や森林と人との係わりなどについて学ぶことを目的として開催しました。

講師には、野鳥や野幌の森林について精通している、自然ウォッチングセンター代表の島田明英氏をお招きしました。



島田 明英氏

午前中の講義は、初めに双眼鏡の使用方を説明していただき、裸眼や眼鏡使用の人の使い方や眼幅の調整方法、左右の視度差の調整方法を理解しました。

(単純ではないんですね…)

観察の準備ができたところで出発です。



今日のコースは、大沢口から大沢コース、大沢園地、桂コースの約4kmを野鳥を観察することを主体に食痕や森林の様子、春の植物などを観察しながら散策することとしました。

散策していく中でシジュウカラ(四十雀)、オオルリ(大瑠璃)、ヤマガラ(山雀)、ツツドリ(筒鳥)、センダイムシクイ(仙台虫食)、キバシリ(木走)、コゲラ(小啄木鳥)、コサメビタキ(小鮫鷄)等の囀りが聞こえてきますが、私たち塾生にはなかなか姿が見えません。



でも、自然ウォッチングセンターの島田さん、鎌田さんには見えるのです。

素早く双眼鏡をセットし、「この方向に居ますよ。」  
覗いてみると枝の上で鳥が囀りをしていました。

野鳥の探し方や生態などを教えていただき、塾生の皆さんも各々の双眼鏡で覗き野鳥を発見、

その後、シジュウカラやオオルリ、ヤマガラ、センダイムシクイなどを観察することができました。



また、クマゲラなどの食痕があり、立ち枯れの木も野鳥にとって大切なものであることや鳥の繁殖期に配慮した森林内での作業、樹木によって集まる野鳥が違うことから多様な森林づくりが重要であることなどの話があり、森林や野生動物との係わりについて現地を見ながら学びました。

フィールドワークのあと昼食を取り、午後からは、座学として、人と森林と鳥の関係や野鳥の分類、生態などを解りやすく説明していただきました。

初めて聞く話もあり、多くのことを学び有意義な1日となりました。



自然ふれあい交流館で講義を聴く